

平成23年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市観光課

1. 概要

平成 23 年（1 月～12 月）の柳川市への観光客の入込客数は、前年の約 115 万 9 千人から 9% 減少し、約 105 万 5 千人だった。平成 18 年から観光入込客数は減少しているものの、平成 23 年の減少率は合併後最大を記録した。主な原因は、3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響と考えられる。月別にみても、東日本大震災が発生した 3 月から 6 月までは、前年の入込客数を大きく下回り、特に 8 月にいたっては、「有明海花火フェスタ」が自粛されたため、前年比 40% の減だった。逆に秋の行楽シーズンには、震災の影響で旅行先を関東方面から九州を選択する観光客がみられ、施設によっては、前年に比べ観光客が増加したところもある。

入込客数の減少に伴い、観光消費額も前年の約 46 億 9 千万円から約 7.2% 減し、約 43 億 5 千万円だった。しかし、1 人当たりの消費額は、前年並みの約 4,123 円だった。

宿泊客数については、前年の約 4 万 2 千人から約 8.8% 減少し、約 3 万 9 千人だった。合併後の宿泊客の減少率は、平成 22 年が最大で約 18%、次いで平成 19 年が 12% となっており、宿泊客数の減少は、東日本大震災の影響に加えて、日帰り・通過型の観光客の増加も主要な要因と推測される。

観光客の交通手段は、乗用車利用者が約 47%、西鉄電車利用者が約 34%、大型バス利用者が約 19% と前年とほぼ変わらず、個人観光客が多く占めている。

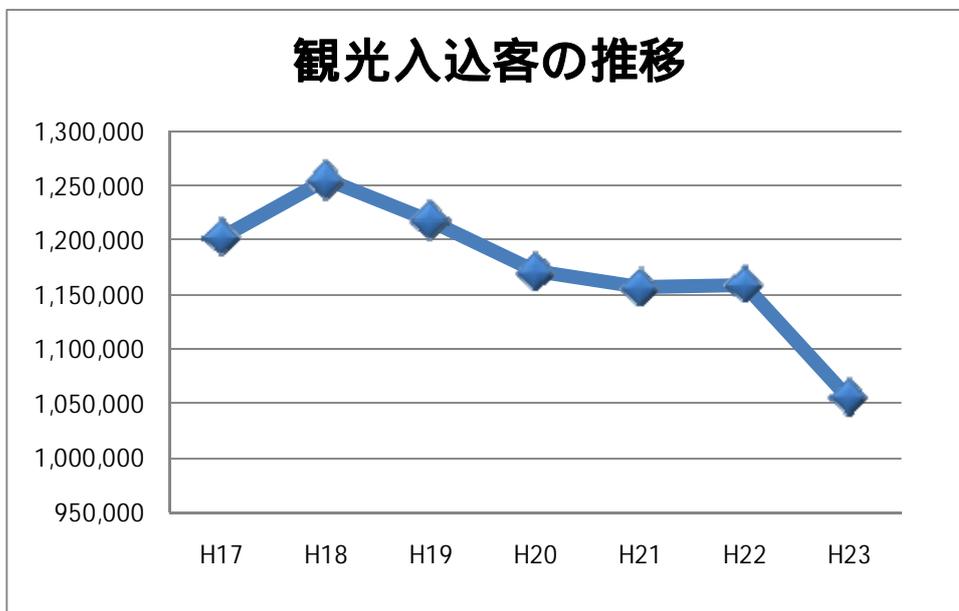
川下りの利用客は、合併後最大の前年比約 10% の減少率を記録し、約 28 万 4 千人だった。原因は、東日本大震災と考えられる。月別にみると震災後の 3 月から 5 月にかけて前年を大きく下回り、5 月については、前比約 25% 減となった。

また、九州運輸局によると、九州の宿泊施設の宿泊居住地は、48.7% が九州となっている。このことから、九州の観光客は、九州内で観光する傾向があると言えるが、前年の 52.9% に比べると 4.2 ポイント減少している。これは、九州新幹線の開業により、近畿、中国地方からの九州への宿泊客が増加していることによる。宿泊者数は、東日本大震災の影響や、日帰り旅行客の増加により全国的に減少しているが、全国の減少率と比較すると九州の減少率は小さいものだった。

2. 観光入込客数

(1) 観光入込客の推移

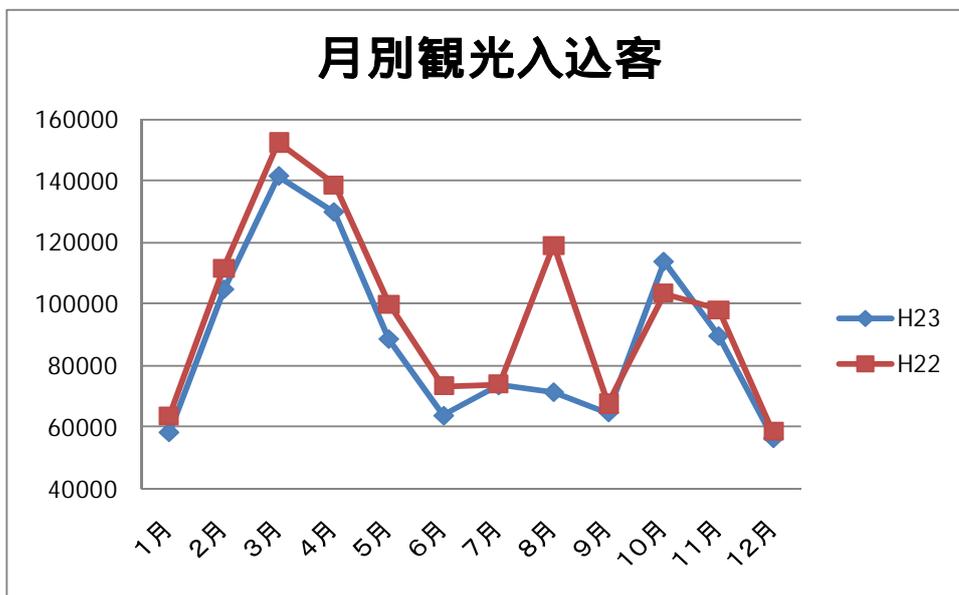
観光客の入込客数は、105万5千人で、前年と比較すると約10万4千人の減少となっている。主な減少要因は、3月に発生した東日本大震災の影響によるものと考えられる。



(2) 月別観光入込客数

入込客数を月別にみると、春先の2月から4月がピークであり、寒い時期の1月、12月の冬場が極端に少ない状況である。これは、2月から開催される「さげもんめぐり」のイベントと川下りの集客が大きいと考えられる。

また、3月に発生した東日本大震災の影響で3月から6月にかけては、前年に比べ、毎月平均で約1万人減少しており、8月については、有明花火フェスタの自粛による影響と考えられる。

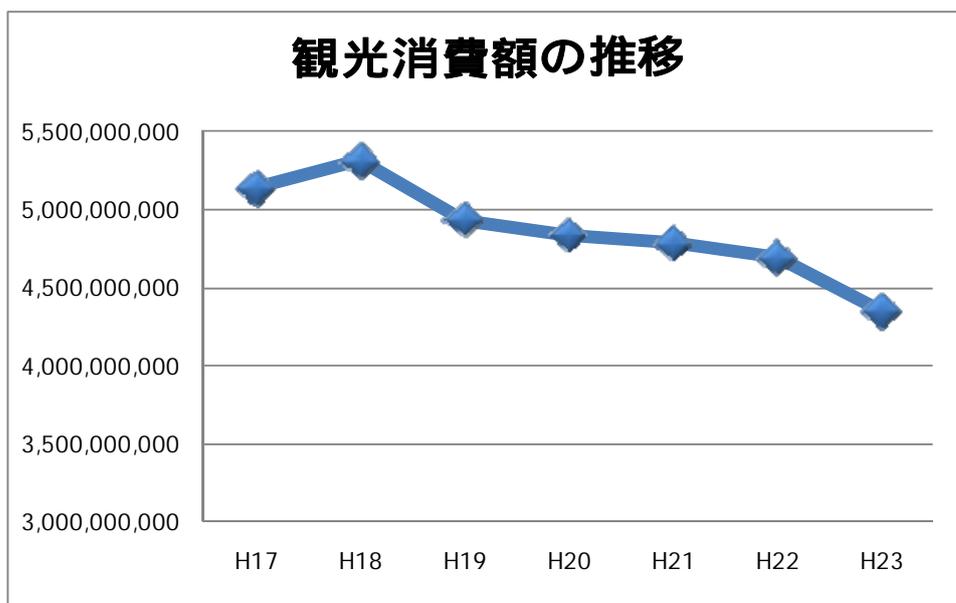


3. 観光消費額

(1) 観光消費額の推移

入込客数の減少に伴い、推計消費額は、約 43 億 5 千万円で、前年と比較すると約 3 億 4 千万円の減少となっており、1 人当たりの消費額は約 4,123 円で、前年とほぼ変わらない状況にある。

また、最も高い消費額は食事代で、約 18 億 1 千万円。また、川下りが約 3 億 8 千万円となっている。



4 . 宿泊客数

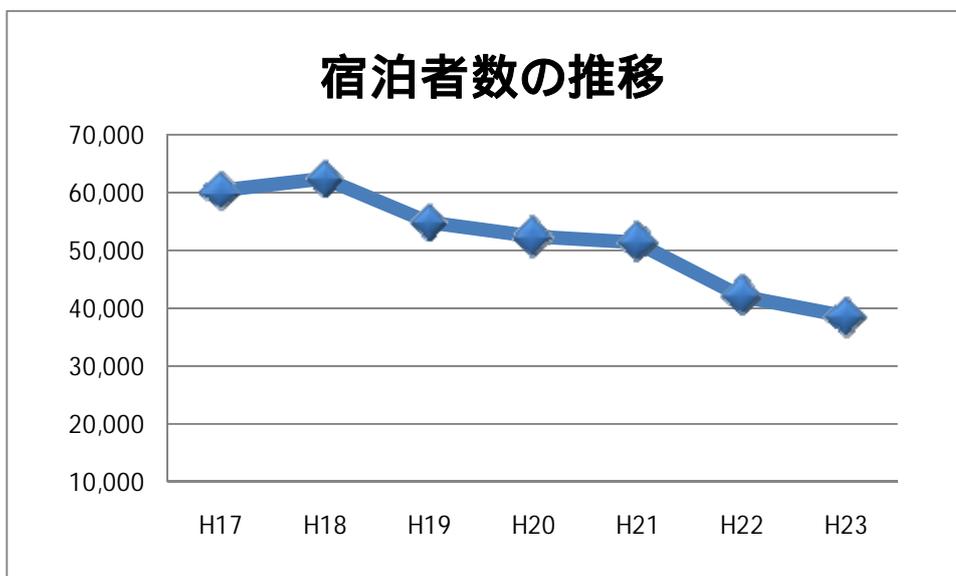
(1) 宿泊客数の推移

宿泊客は、約 3 万 9 千人であり、前年比約 3 千 700 人の減である。

また、観光入込客数に占める宿泊者数の割合は、約 4%であり、日帰り・通過型の観光客が大半を占めている。

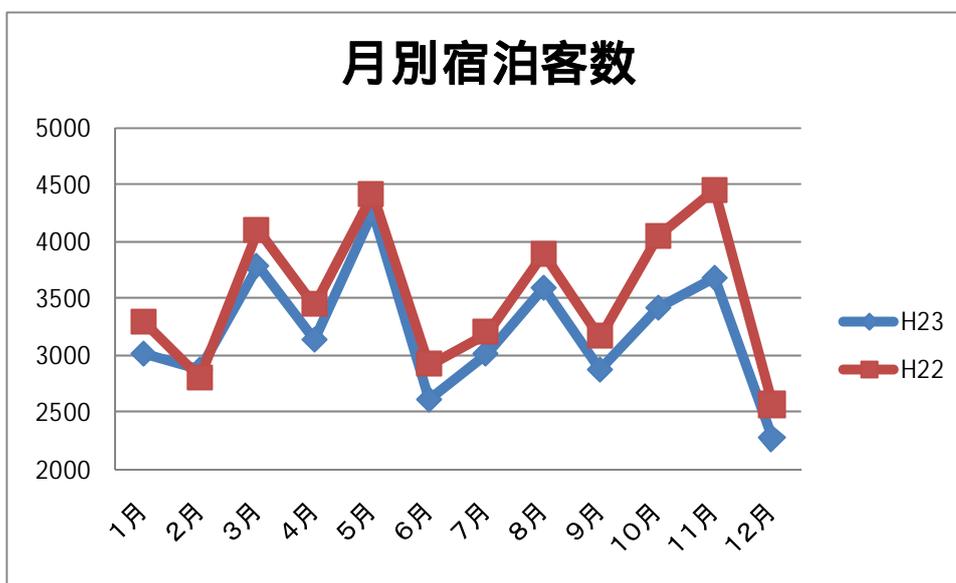
宿泊者数は、平成 18 年から一貫して減少しており、東日本大震災の影響だけでなく、日帰り・通過型の観光客の増加も主な原因と考えられる。

また、市内の宿泊施設は、平成 22 年に 1 施設廃業、平成 23 年に 1 施設休業し、現在 8 施設となっている。



(2) 宿泊客数と観光入込客（月別）

平成 23 年の月別宿泊客数では、平成 22 年に比べると一貫して下回っており、特に 10 月、11 月の秋の行楽シーズンの減少が 1 番大きくなっている。

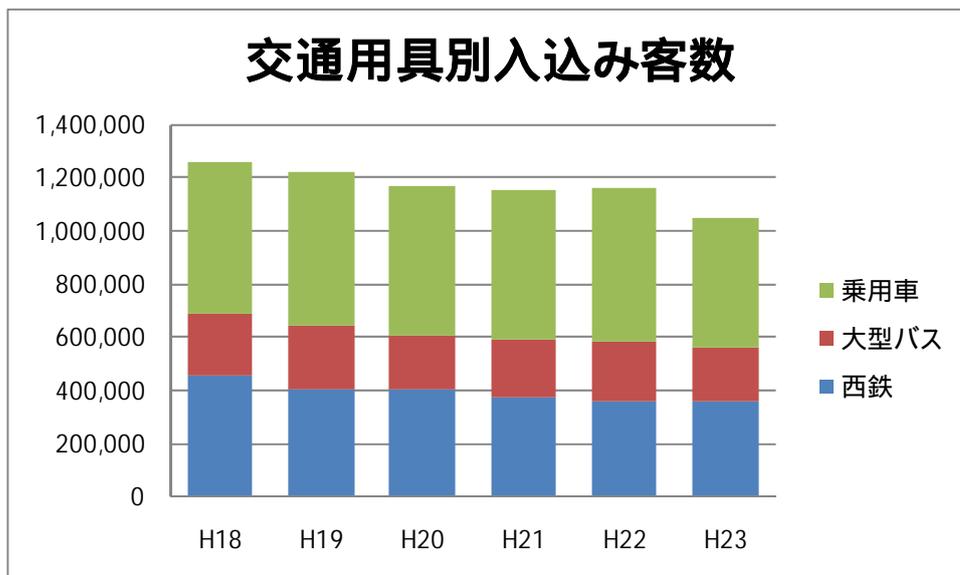


5. 個別の交通機関

(1) 交通用具別入込客数の推移

交通手段（大型バス・西鉄電車・乗用車）別に観光入込客数を推定すると、乗用車利用者が全体の47%を占め、西鉄電車利用者が約34%、大型バス利用者約19%となっている。

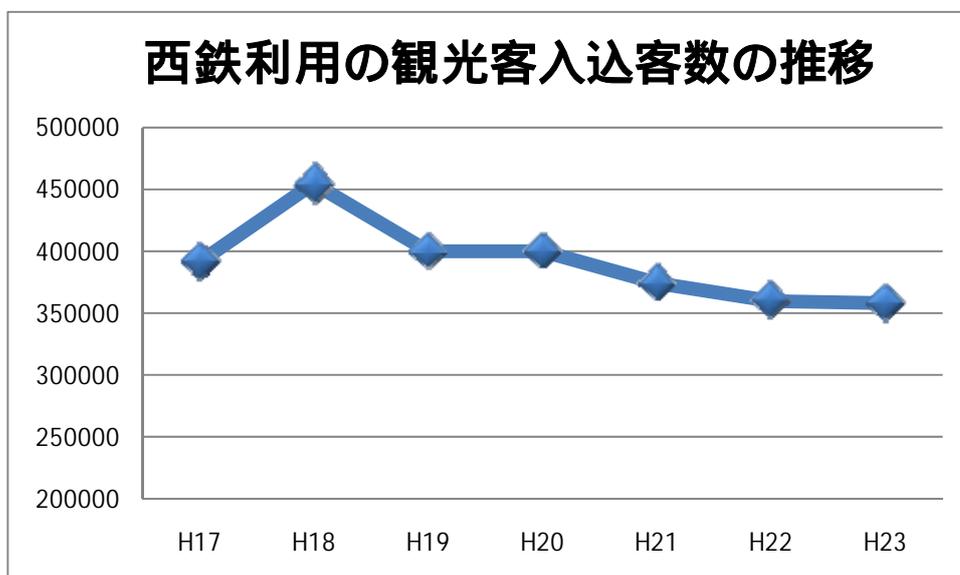
このことから、乗用車や西鉄電車で移動する小グループ・家族で旅行する個人型の観光が多くを占めていることがわかる。また、推移からこのトレンドは継続することが予想される。

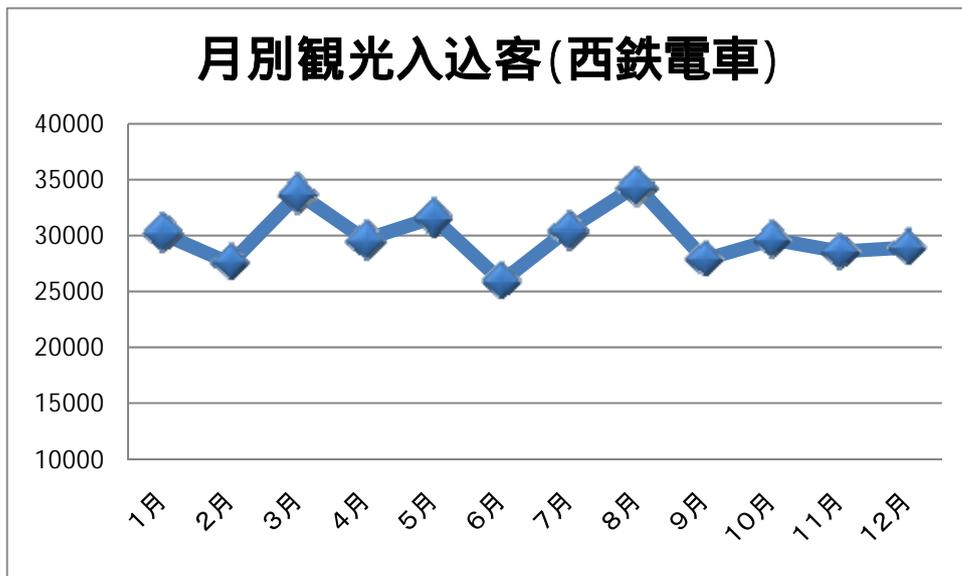


(2) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約198万8千人であり、昨年比約1万人の減少となっている。その中で、西鉄を利用する観光客入込みは、35万7千人と推計され、全体の観光客数の内、約34%と推計される。西鉄利用の観光客は年々減少傾向である。

西鉄利用の観光客の内、西鉄が販売している「柳川特盛きっぷ」や「湯ったり柳川きっぷ」といった企画きっぷを利用して訪問される観光客も見られる。



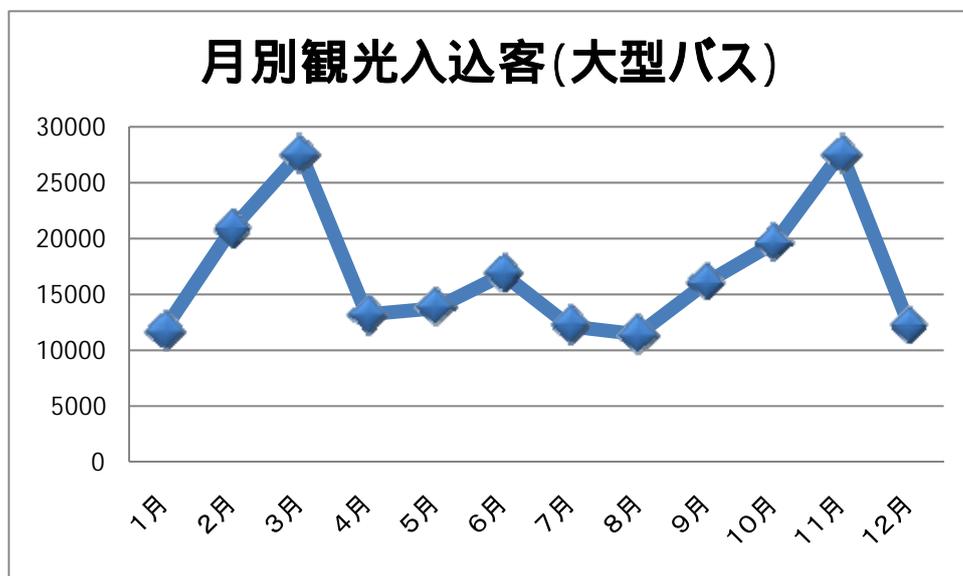


(3) 大型バス

主要駐車場の大型バスの台数状況を見ると、延べ約4千9百台の駐車があり、昨年比で約500台減少している。

大型バスを利用する入込み客数は、20万3千人で全体の19%を占めており、昨年比で約2万人の観光客が減少した。

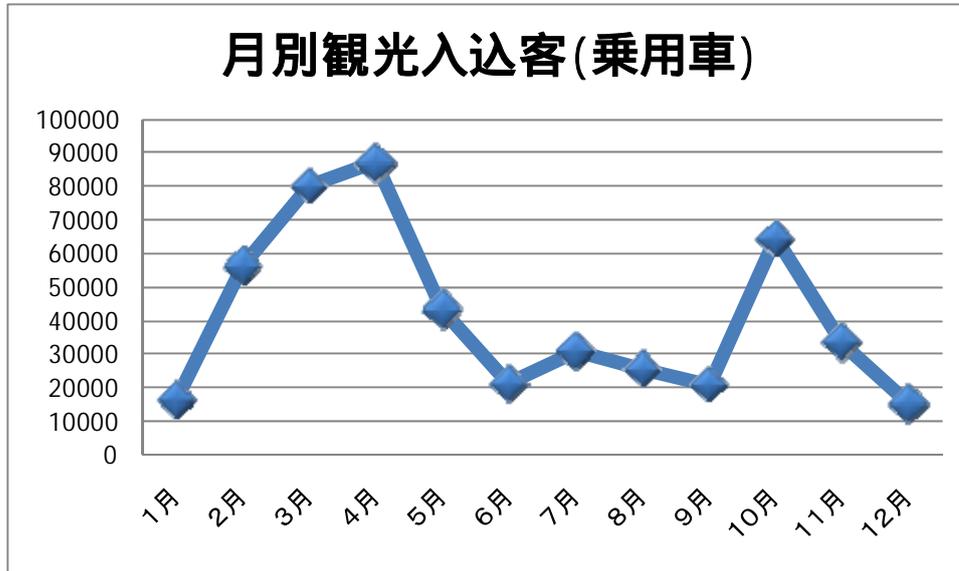
月別にみると、2月から3月にかけての「さげもんめぐり」のシーズンと11月の秋の行楽シーズンが多くなっている。



(4) 乗用車

イベント駐車場利用を除いた市営駐車場などの主要駐車場の駐車状況をみると、約 1 万 5 千台であり、昨年比約 1 千台の増加である。

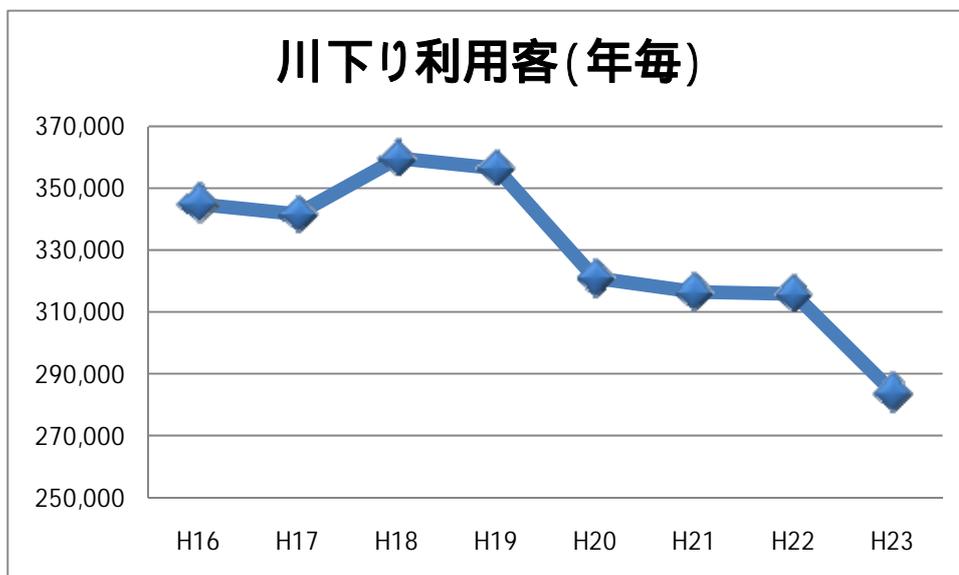
マイクロバスを含めた乗用車を利用する観光入込み客は、49 万 4 千人で、全体の 47%を占めており、昨年比で約 8 万人の観光客が減少した。

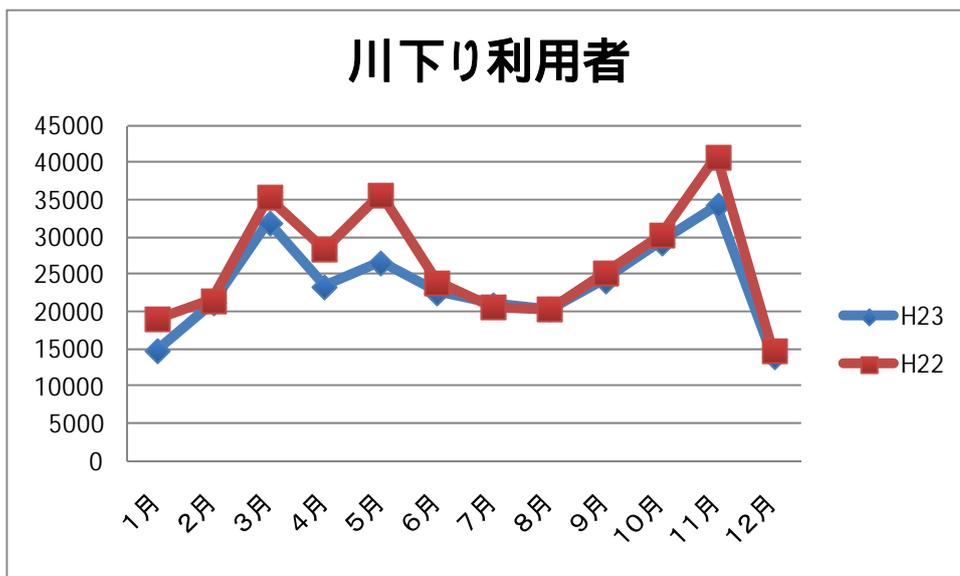


6. 主な観光施設の入込客数

(1) 川下り

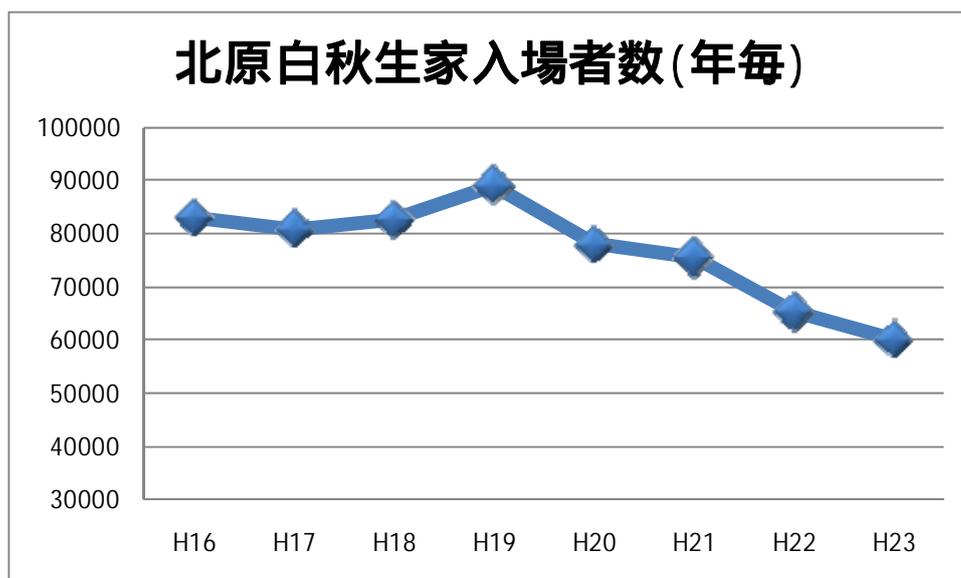
川下り利用者については、約28万4千人で、昨年と比べると約3万2千人減少している。月別にみると、11月がピークで約3万4千人となっており、次いで3月が約3万2千人の利用となっている。昨年の月毎と比べると、3月～5月は月平均で約6千人減少している。これは、東日本大震災の影響と考えられる。





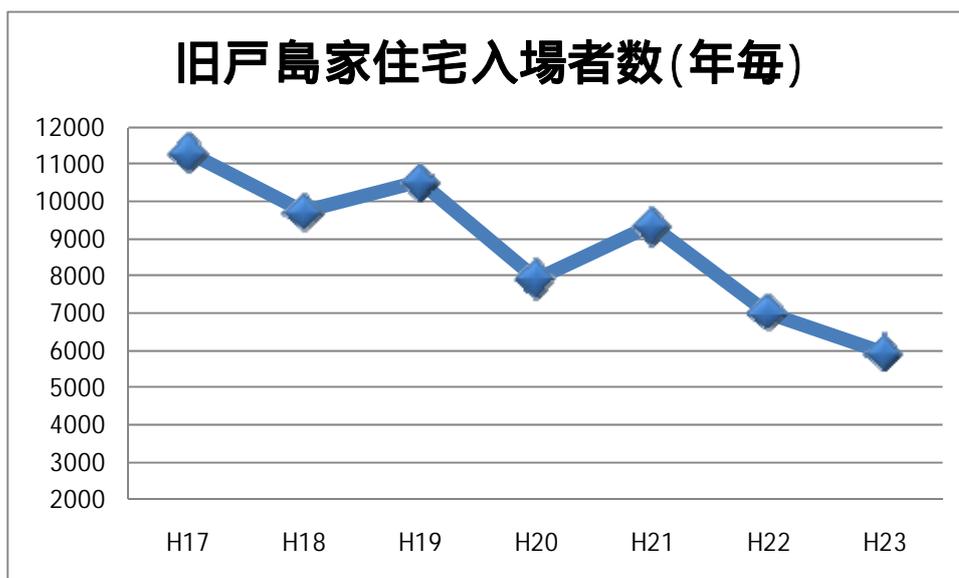
(2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入込客は、約6万人であり、前年比で約5千人減少した。



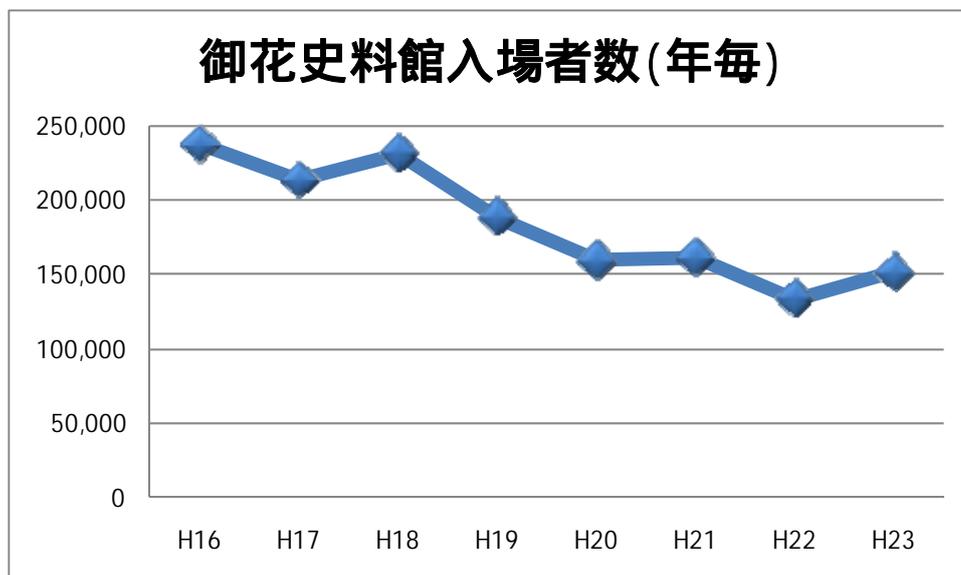
(3) 旧戸島家住宅

旧戸島家住宅の入込客は、6千人で前年比約1千人の減少となっている。



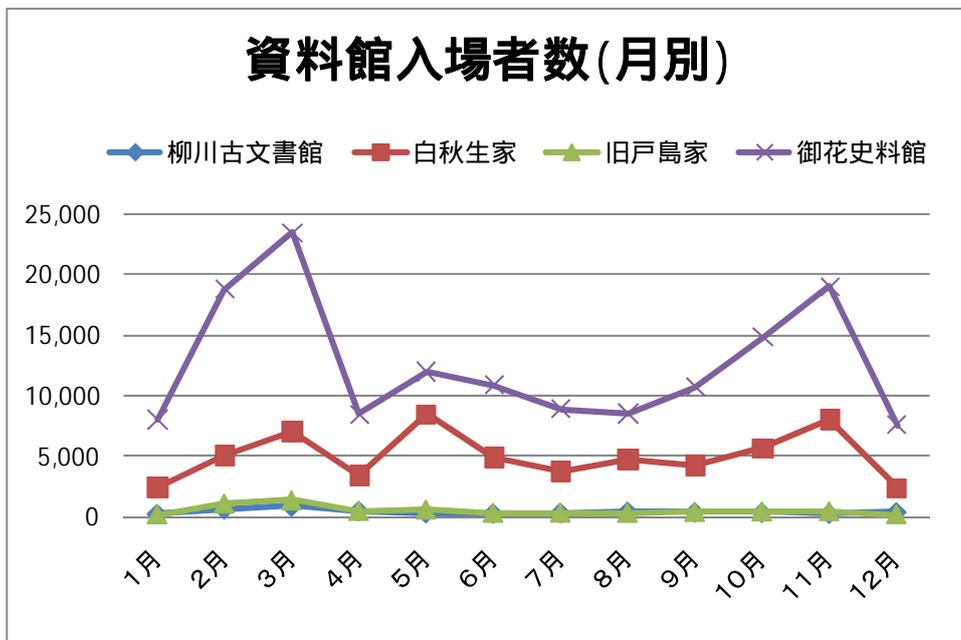
(4) 御花

御花史料館の入場者数は、約15万1千人で前年比約1万8千人の増加となっている。主な理由は、東日本大震災の影響で目的地を九州に変更した修学旅行の増加による。



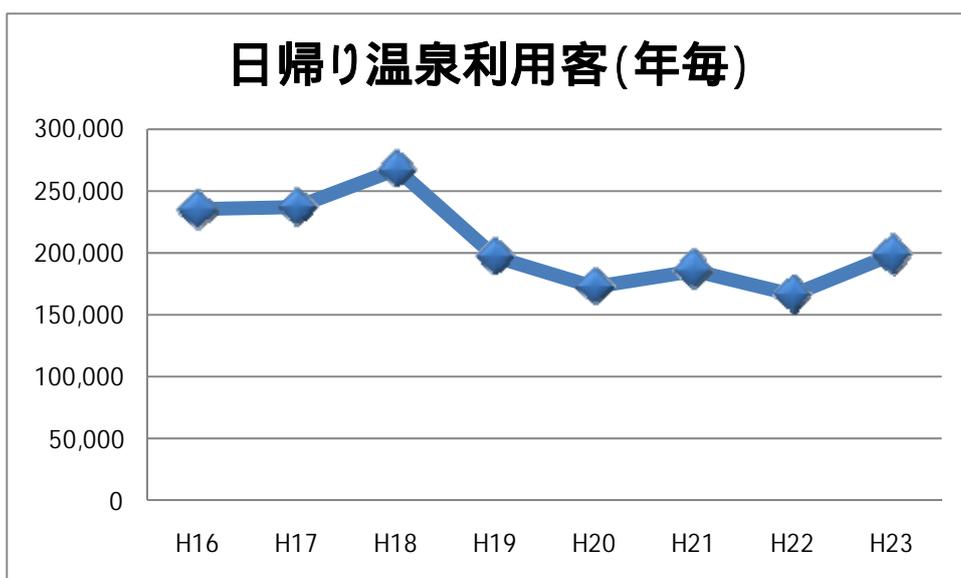
(5) 資料館入場者数(月別)

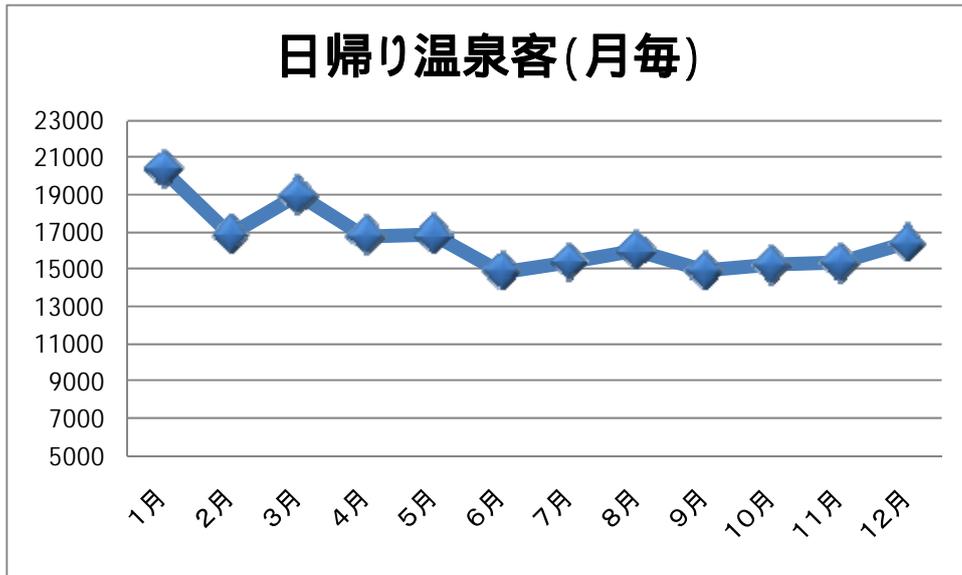
資料館別に入場者数をみると、御花の史料館が1番入場数が多く、次いで白秋生家、旧戸島家住宅、柳川古文書館の順となっている。北原白秋生家へ来館された方は、無料で旧戸島家住宅に入場できるが、年間入場者数は北原白秋生家6万人に対して旧戸島家住宅が6千人と1割となっている。



(6) 日帰り温泉

日帰り温泉客は、約19万8千人であり、前年比約3万2千人の増となっている。これは、前年比でかんぼの宿の利用者が増加したことが主な理由である。

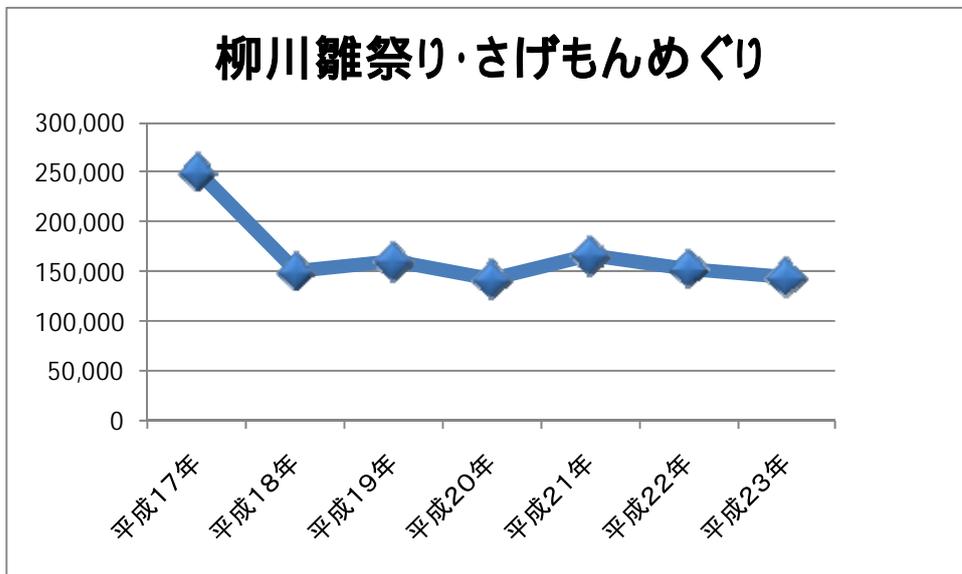




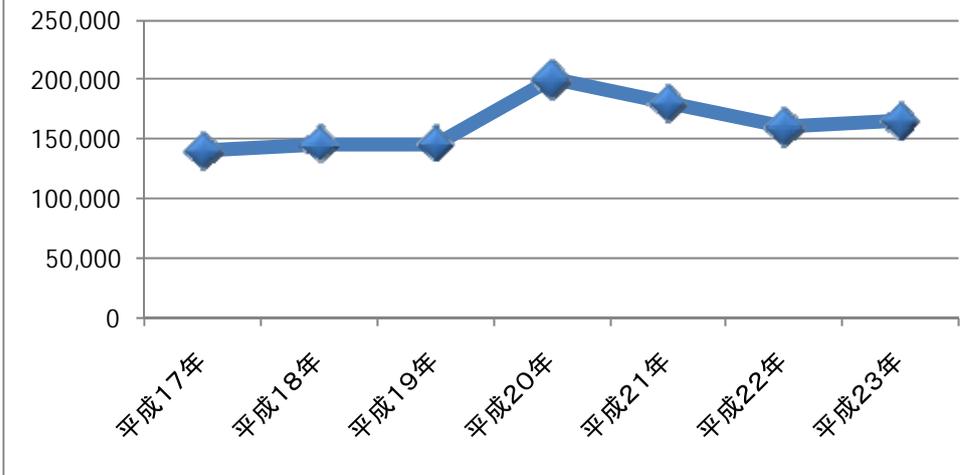
7. 主なイベントの入込客数

春に開催する「柳川雛祭り・さげもんめぐり」の入込客数は、14万4千人と前年比で9千人減少している。主な原因は、3月に発生した東日本大震災の影響と考えられる。

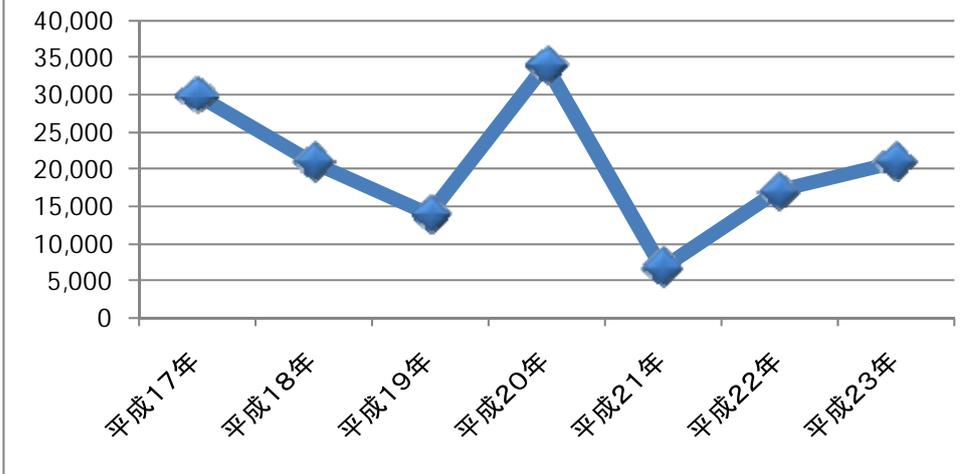
また、花のイベント「中山大藤まつり」や「ひまわり園」は、前年よりも増加しており、「市民まつり」についても、平成23年から1日から2日間の開催に変更し、入込客数は、6万5千人と1万1千人増加している。



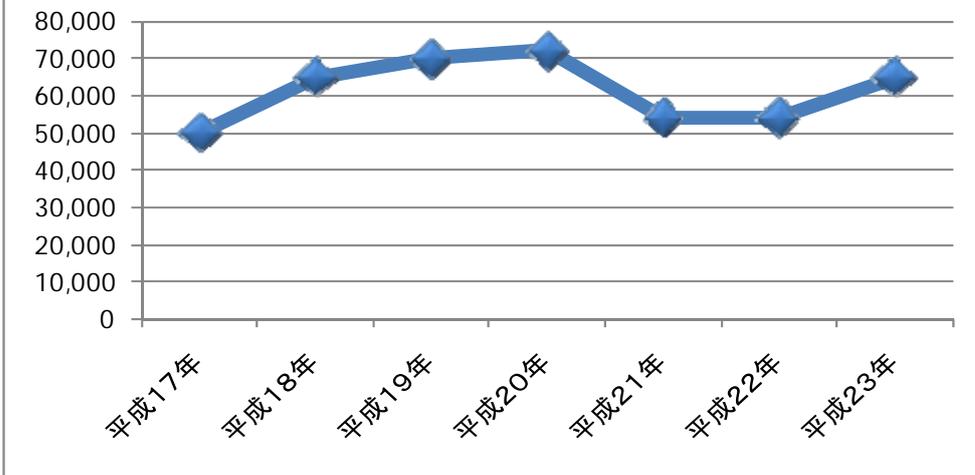
中山大藤まつり



ひまわり園



市民祭り



8 . 外国人観光客

外国人観光客は、約 2 万 4 千人で、前年比約 4 千人の増加だった。国別にみると台湾、韓国、香港などのアジアからの観光客が大半を占めている。平成 23 年は東日本大震災や、これに伴う福島第一原子力発電所の事故の影響により日本への海外観光客は減少している。